

人生を拓く 22

いわもと
岩本 トミ子さん (90) 西町3

上川管内風連町に開拓入植した父荒井貞蔵さん(昭和24年、55歳で没)と母コトさん(同38年ごろ、74歳で没)の10人兄妹の4番目(三女)として育ちました。地元風連の尋常小学校に入学したものの、すでに4人の兄妹がいたため、農家の手伝いのためわずか1年で学校を辞めて妹、弟の面倒を見ました。

「飯炊きや守り子、田んぼの手伝い、冬は米俵を編むわらづくりなんかをしたさ」と働き手として小さいころから懸命に一家を支えたそうです。

1947(同22)年、23歳の時に4歳年上の正夫さんと見合い結婚しました(平成18年、88歳で逝去)。当時の日本発送電雨竜発電所Ⅱ現北海道電力(株)Ⅱに勤務し、1976(昭和51)年に退職するまで電力マシンの29年間のうち15年間を同発電所に勤めてその間に2男2女を授かりました。

「子どもらが2歳ごろまで山の中にいたけれど、寒いし雪は降るし、すごかったよ。漬物は家の中に置いていても全然解けないんだよ。10月末から薪ストーブを炊き始めて、



5月まで炊いていたさ。でも全然苦勞じゃなかった。それが仕事だと思ってたからね。」
その後発電所近くの2軒長屋の社宅に引っ越し、「朱鞠内と雨竜発電所のため池(現朱鞠内湖)の間をかよったんだよ」。
上川発電所(上川町層雲峡)、愛別発電所(愛別町安足間)、富良野営業所、志比内発電所(東川)、旭川電業所と現業部門を転勤し、引っ越しは12、13回にも及んだそうです。
35歳の若さで亡くなった長男正美さんは先天性障害を抱えて入院療養を続けたため、人知れぬ苦勞が絶えなかったよう。「どこへも連れて行けんで辛かった」と早逝したわが子への思いが今もなおこみ上げてきます。

この地を安住の地を選んで訪れた穏やかな日々。旭川在住の長女京子さん(69)をはじめ残る3姉弟はいずれも元気。時々電話をかけてきてくれたり、年に一度は訪ねて来ます。昨年のお正月さん7回忌には孫8人を加えて20人余りで久々にぎやかなひとときが戻りました。

俳句

福はうち鬼もうちよと男の子
大寒や猫背のままの介護かな
雪あらし日本列島ほしいまま
冬籠りやけに後引くかりんとう
銭湯のタイルに咲きし梅の花
梅一輪活けてなごみし奥座敷
冬火花かくれて弾けた星が居る
ランドセル白いタイツに春吹雪
道広き除雪のあとの感謝かな
梅咲きてそろそろトンネル抜けるころ
旅心くすぐる今朝の梅便り
ひとり歩く電線越しにオリオン座
ラジオより零るる昨日の春の雪
妻星に寂しき兄の梅便り
公園の角にどうぞと梅の花
初針は猿の人形願かけて

小林ろば
高橋公花
杉山ひろのり
保科なほ
徳光吐苦
杉山りつ
こばやし 星来
横田則子
若田久
高瀬潤
石澤清宏
三島智
若田郁
本田咲
佐々木りえ
山内みゆ

